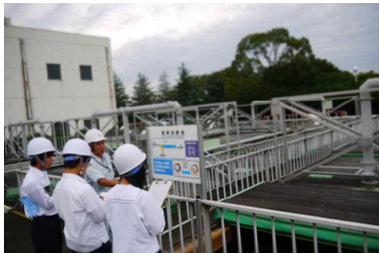


## SGHクラブ(研究班)FW

SGHクラブ(研究班)は、現在進めている「水資源の持続可能な管理の確保に関する研究」の一環として、9月30日(金)の放課後に、佐野市水処理センターを訪問しました。この日は、現場施設を見学し、事前に送付した質問紙への回答ならびに質疑応答を行いました。

### 佐野市の下水道は「分流式下水道」!

•SGHクラブ研究班は、雨水の資源化を研究しています。佐野市では、台北市同様に、汚水と別に雨水だけを回収する「分流式」下水道が整備されています(東京都は汚水と雨水を一本の管で集める合流式)。佐野市も雨水利用が可能なのではないでしょうか。



### 微生物の働きを利用し、薬剤は利用しない

•佐野市の汚水はツリガネムシやクマムシなど約30種の微生物により自然分解されます。先日の水道局でも、今回の下水道課の方からも、佐野の水質に自信と誇りを抱いていることが伝わってきました。市民の認知度(さらには関心度)が低いのが課題だと感じました。



関心の低さ:今年度ここを見学したのは、SGHクラブ以外では、市内の小学校2つと佐高1年の1つの班だけだそうです

### 秋山川への放水路

処理水の水質は秋山川と同水準を誇りますが、法令上、塩素投入が必要です。岩永光喜君(高2)「1年時に秋山川を下流から上流までFWした時、河川水なのにわずかに塩素臭がしたのは、気のせいではなかったのですね。」→日頃から関心を持ち、アンテナを高く張ることが、「発見」や「気づき」ができる人の共通点です。



### 処理後の汚泥タンク

立野絢子さん(高2)「佐野市では下水処理後に発生する汚泥は、どのように処理されていますか?」「セメント原料にしてバイオマス発電でも知られる大阪住友に売ります。」「処理過程で発生したメタンガスで発電するとともに熱電併給も行い始めました。」とのこと。



### 質疑応答(佐野市下水道課 増田係長、店網さん)から見えてきた課題



•佐野市では、下水使用料だけで、維持管理費はまかなえているが、膨大なお金がかかる管の設置費用はまかなえていないそうです。この水処理センターも築40年で、更新が待たなしです。佐野市は節水トイレや節水シャワー等の普及で、下水使用量が250リットル/人・日を下回るそうです。水不足の台湾でも274リットルありました。「節水という省資源の推進」と「持続可能な下水道事業」の両立、というジレンマを発見しました。

SGHクラブ研究班として、佐野市の人口減少、使用人口・使用量の減少という条件下で厳しさを増す下水道事業の持続可能性を追求していきたいと考えます。これはグローバル・エイジングの進み中で、世界的な課題でもあります。次は各国の下水道政策の調査から始めるつもりです。